

## 【追加分析】県民の幸福感の推移について

県では、第1期アクションプランである「政策推進プラン（2019年度～2022年度）」により、「いわて県民計画（2019～2028）」長期ビジョン第5章に掲げる、県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくための取組を推進しており、そうした取組の進捗状況を把握するため、県内在住の5,000人を対象として毎年1月に実施している県民意識調査により、幸福に関する実感について平成28年から把握しています。

幸福に関する実感である主観的幸福感は、その調査において「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」までの5段階の選択肢で把握しており、分析に当たっては、その選択肢に応じて5点から1点を配点することで算出される平均値により、推移を把握してきました。

また、主観的幸福感に関連する12の幸福領域に関する実感（分野別実感）についても、同様に把握を行ってきました。

これらの幸福に関する実感の推移については、令和元年度の本部会において、調査開始から第1期アクションプランが始まる直前である平成31年までの4年間について分析を行っており、今回は、第2期アクションプランの策定に当たり、第1期アクションプランの期間中の状況に係る分析も加えて、その推移を整理しました。

### 1 分析対象

#### (1) 県民意識調査の概要

- ① 調査名称 県の施策に関する県民意識調査
- ② 調査対象 県内に居住する18歳以上の男女  
(平成28年までは20歳以上、平成29年からは18歳以上)
- ③ 対象者数 5,000人
- ④ 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑦ 調査時期 毎年1～2月
- ⑧ 回収率 H28年 71.5% (3,576/5,000人)、H29年 68.4% (3,422/5,000人)  
H30年 65.2% (3,260/5,000人)、H31年 66.5% (3,327/5,000人)  
R2年 67.7% (3,387/5,000人)、R3年 71.0% (3,549/5,000人)  
R4年 66.5% (3,324/5,000人)

※ 県民意識調査では、幸福に関連する各種実感を平成28年調査から把握している。

#### (2) 設問項目の概要

##### ① 主観的幸福感

##### ア 設問

「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか」

##### イ 選択肢

「幸福だと感じている」、「やや幸福だと感じている」、「どちらともいえない」

い」、「あまり幸福だと感じていない」、「幸福だと感じていない」、「わからない」

② 幸福に関連する分野の実感

ア 設問

政策分野	分野別実感	設問
Ⅰ 健康・余暇	心身の健康	こころやからだが健康だと感じますか
	余暇の充実	余暇が充実していると感じますか
Ⅱ 家族・子育て	家族関係	家族と良い関係が取れていると感じますか
	子育て	子育てがしやすいと感じますか
Ⅲ 教育	子どもの教育	子どものためになる教育が行われていると感じますか
Ⅳ 居住環境・コミュニティ	住まいの快適さ	住まいに快適さを感じますか
	地域社会とのつながり	地域社会とのつながりを感じますか
Ⅴ 安全	地域の安全	お住まいの地域が安全だと感じますか
Ⅵ 仕事・収入	仕事のやりがい	仕事にやりがいを感じますか
	必要な収入や所得	必要な収入や所得が得られていると感じますか
Ⅶ 歴史・文化	歴史・文化への誇り	地域の歴史や文化に誇りを感じますか
Ⅷ 自然環境	自然のゆたかさ	自然に恵まれていると感じますか

イ 選択肢

「感じる」、「やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない」、「感じない」、「わからない」

## 2 分析方針

県民意識調査で把握している県民の幸福に関連する様々な実感について、新たなアクションプラン策定の検討の参考とすることを目的に、主観的幸福感と分野別実感を、以下の視点、方法で整理しました。

### 【県民意識調査の分析方針】

#### 1 分析の視点

##### (1) 調査結果の時系列分析

県民意識の変化の状況を把握するため、第1期アクションプランが始まる直前まで（平成28年～平成31年）と第1期アクションプラン中（平成31年～令和4年）の調査結果の時系列変化の有無を分析

#### 2 分析データ

以下のとおり、当分析部会の分析データと公表データは処理方法が異なるため、既に公表されている県民意識調査結果と数値が異なる場合があります。

##### (1) 単純集計を採用

別途公表している県民意識調査結果（以下「公表データ」という。）は、回答者数の地域差を考慮し、各回答に居住人口に応じた係数を乗じて集計（以下「母集団拡大集計」という。）していますが、分析を適切に行うため、母集団拡大集計は行わず、単純集計結果を用いました。

##### (2) 「わからない」、「未回答」を除外して集計

公表データは、「わからない」、「未回答」（以下「未回答等」という。）を含めて集計していますが、調査年によって未回答等の回答割合が大きく変動している設問があることから、適切な時系列分析のため、未回答等を除外して集計しました。

##### (3) 回答結果に1点から5点を配点して集計

公表データは、「感じる」と「やや感じる」の回答者を足し合わせた割合を使用していますが、5段階評価の回答結果を適切に分析に反映させるため、回答結果に以下のとおり配点した結果の平均値を使用しました。

（配点）

・感じている（幸福である）	5点	・あまり感じない（あまり幸福ではない）	2点
・やや感じている（やや幸福）	4点	・感じない（幸福ではない）	1点
・どちらでもない	3点		

#### 3 分析方法

##### (1) 時系列変化の有無はt検定で検証

時系列変化の有無は、2時点間をt検定で検証し、5%水準で有意な差があると判定されたものを、期間で差があると判断しました。

分析としては、次の分析を実施

①前年比較

②基準年比較（基準年は、以下のとおり。

第1期アクションプランが始まる前：調査を開始した平成28年  
第1期アクションプラン期間中：プラン開始直前の平成31年)

③2年比較

(2) 計画期間中のトレンドの変化は、t検定を用いた多重比較で検証

計画期間中のトレンドの変化については、(1)でt検定を行った二つの比較分析に、2年比較の結果を加え、重複するものを除く6つのデータ（R2-H31、R3-R2、R4-R3、R3-H31、R4-H31、R4-R2）の有意確率を調整して、有意な差があると判断したものから、計画期間中のトレンドの変化を推測しました。

(3) 計画期間中における実感の推移や変化の要因について、補足調査の結果から推測

令和2年から実施している県民意識調査の変動要因を推測するために行っている補足調査の結果から、平成31年から令和4年の間が上昇又は低下の傾向にある場合について、本部会でこれまでに行った分析結果から要因を推測しました。

### 3 分析結果

#### 3.1 主観的幸福感の推移

主観的幸福感の実感平均値の推移は以下のとおりです。

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

- ・ 平成28年の主観的幸福感の平均値は、5点満点中3.44点であり、平成28年から平成31年までの間、前年に比べて有意に変化している年は確認できませんでした。
- ・ 平成28年と平成31年を比較しても、有意な変化は確認できませんでした。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、有意な差が確認されなかったことから、主観的幸福感概ね横ばいに推移していました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

- ・ 第1期アクションプランが始まる直前である平成31年の主観的幸福感の平均値は3.43点であり、平成31年から令和4年までの間、前年と比較して有意に変化している年は確認できませんでした。
- ・ 平成31年と令和4年を比較すると、有意に上昇していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における実感は上昇傾向で推移しています。

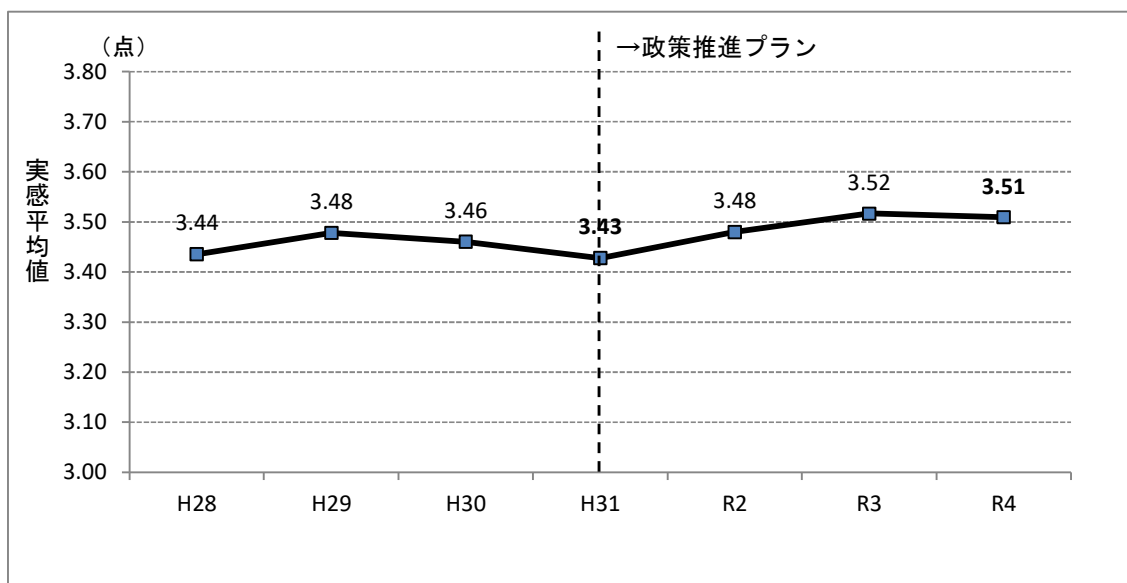


図1 主観的幸福感に係る実感の平均値の推移

また、「幸福と感じる（「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」）」と回答した人と「幸福と感じない（「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」）」と回答した人の割合を見ると、「幸福と感じる」と回答した人は、平成28年の51.3%から平成30年には55.4%まで増加しましたが、平成31年には52.3%に低下しました。しかし、令和2年には再び増加に転じ、令和4年には56.6%となっています。

このような結果から、令和4年の「幸福と感じる」と回答した人の割合は、調査を始めた平成28年及び第1期アクションプランが始まる直前の平成31年と比べて、増加しています。（図2参照）

一方で、「幸福と感しない（「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない）」と回答した人の割合は、平成28年の18.3%から平成30年までは概ね横ばいに推移していましたが、平成31年に19.3%に増加しました。以降、令和3年（16.1%）までは減少傾向にありましたが、令和4年には再度上昇に転じ、17.8%となっています。

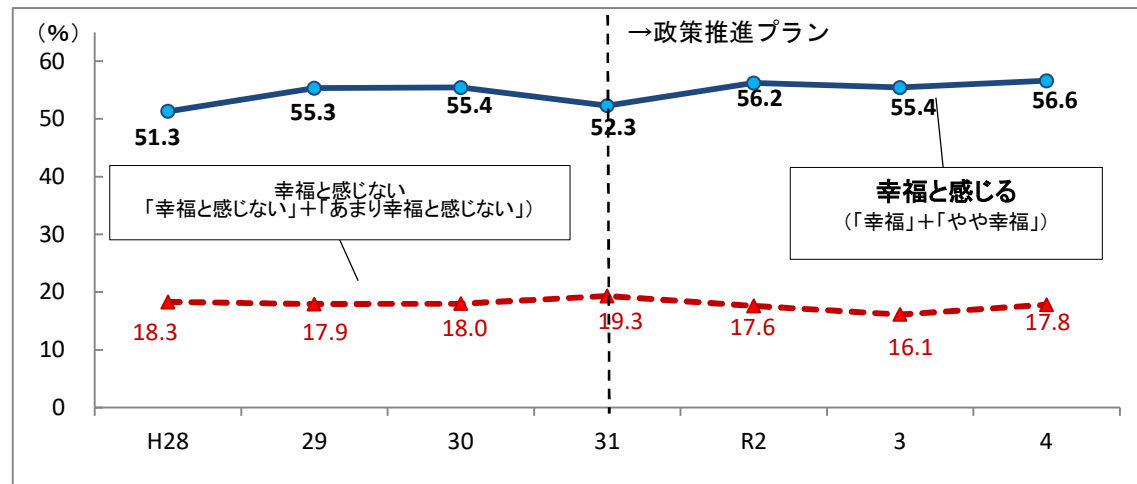


図2 主観的幸福感に係る実感の割合の推移

### 3.2 分野別実感の分析結果

主観的幸福感に関連する領域である 12 の分野別実感の動向については、次のとおりです。

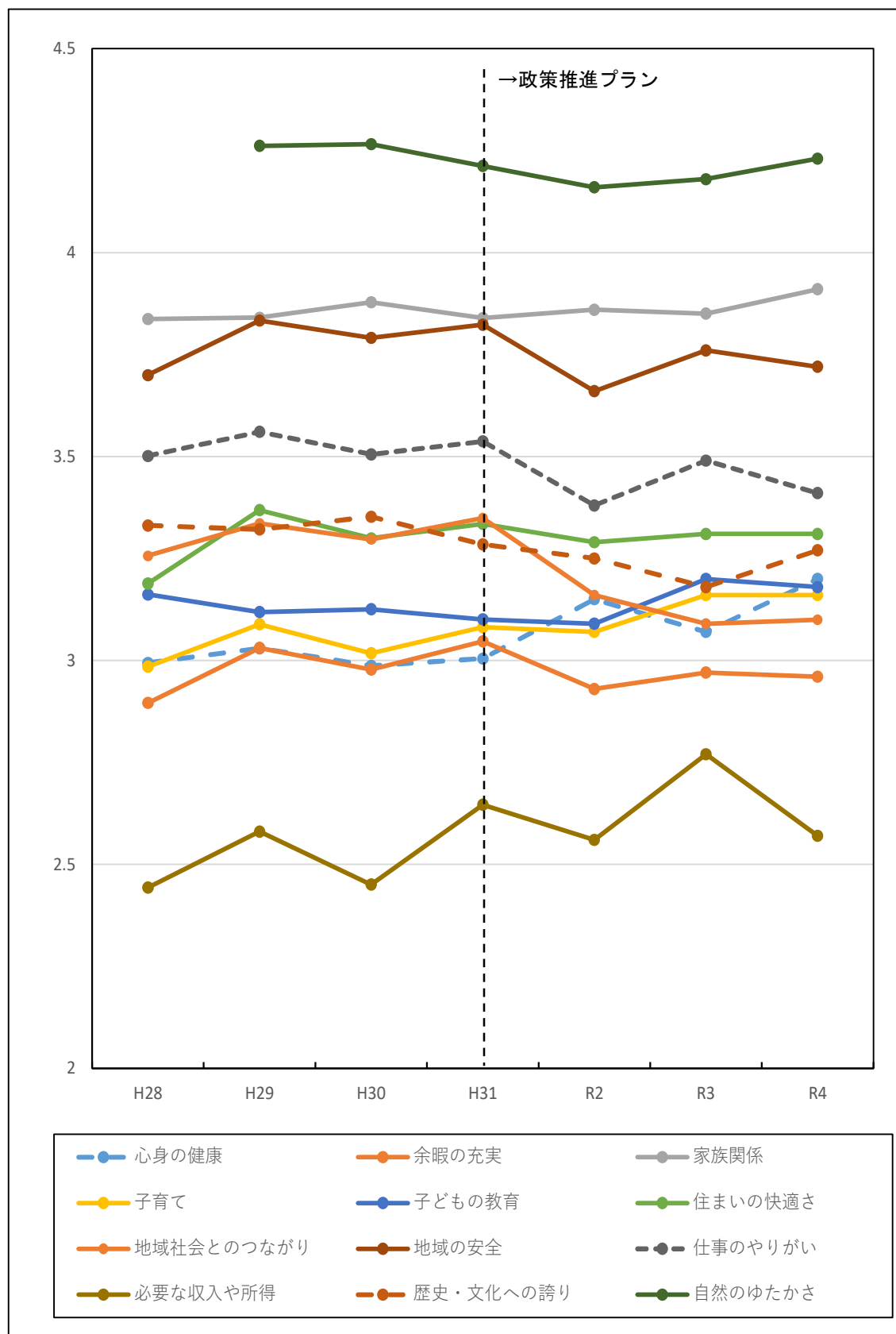


図3 分野別実感平均値の推移

## (1) I 健康・余暇分野「心身の健康」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

- ・ 平成28年の実感平均値は、5点満点中2.99点であり、平成28年から平成31年までの間、前年に比べて有意に変化している年は確認できませんでした。
- ・ 平成28年と平成31年を比較しても、有意な変化は確認できませんでした。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、有意な差が確認されなかったことから、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいに推移していました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

- ・ 平成31年の実感平均値は3.00点であり、平成31年から令和4年までの間、前年と比較してみると、平成31年から令和2年までの間は有意に上昇し、令和2年から令和3年までの間は有意に低下し、令和3年から令和4年の間は再び有意に上昇していました。
- ・ 平成31年と令和4年を比較すると、有意に上昇していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感は、睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良くなっていることなどの要因により、上昇傾向にありました。

## (2) I 健康・余暇分野「余暇の充実」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

- ・ 平成28年の実感平均値は、5点満点中2.90点であり、平成28年から平成29年までは有意に上昇し、平成29年から平成30年までは有意な変化が確認できず、平成30年から平成31年までは再び有意に上昇していました。
- ・ 平成28年と平成31年を比較すると、有意に上昇していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感は、上昇傾向にありました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

- ・ 平成31年の実感平均値は3.05点であり、平成31年から令和4年までの間、前年と比較してみると、平成31年から令和2年までの間は有意に低下し、令和2年から令和4年までの間では有意に変化している年は確認できませんでした。
- ・ 平成31年と令和4年を比較すると有意に低下していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、平成31年から令和2年の間で低下して以降、近年は特段の変化が見られていないことから、この期間における当該分野別実感は、知人・友人との交流や趣味・娯楽の機会・場所の減少などの要因により、低下傾向にありました。

## (3) II 家族・子育て分野「家族関係」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

- ・ 平成28年の実感平均値は、5点満点中3.84点であり、平成28年から平成31年



までの間、前年と比べて有意に変化している年は確認できませんでした。

- ・ 平成 28 年と平成 31 年を比較しても、有意な変化は確認できませんでした。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、有意な差が確認されなかったことから、この期間における概ね横ばいに推移していました。

＜第 1 期アクションプラン期間中の状況＞

- ・ 平成 31 年の実感平均値は、3.84 点であり、平成 31 年から令和 4 年までの間、前年と比較してみると、平成 31 年から令和 3 年までの間は有意な変化を確認できませんでしたが、令和 3 年から令和 4 年までの間は有意に上昇していました。
- ・ 平成 31 年と令和 4 年を比較すると、有意に上昇していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、有意な差が確認されなかったことから、この期間における当該分野別実感概ね横ばいに推移していました。

(4) Ⅱ 家族・子育て分野「子育て」の実感

＜第 1 期アクションプランが始まる直前（平成 31 年）までの状況＞

- ・ 平成 28 年の実感平均値は、5 点満点中 2.98 点であり、平成 28 年から平成 31 年までの間、前年と比較してみると、平成 28 年から平成 29 年までの間は有意に上昇し、平成 29 年から平成 30 年までの間は有意に低下し、平成 30 年から平成 31 年までの間は再び上昇していました。
- ・ 平成 28 年と平成 31 年を比較すると、有意に上昇していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感概ね上昇傾向にありました。

＜第 1 期アクションプラン期間中の状況＞

- ・ 平成 31 年の実感平均値は 3.08 点であり、平成 31 年から令和 4 年までの間、前年と比較してみると、平成 31 年から令和 2 年までの間は有意な変化を確認できませんでしたが、令和 2 年から令和 3 年までの間は有意に上昇し、令和 3 年から令和 4 年までの間は有意な変化を確認できませんでした。
- ・ 平成 31 年と令和 4 年を比較すると、有意に上昇していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感概ね、子どもを預けられる人・場所があるなどの要因により、上昇傾向にありました。

(5) Ⅲ 教育分野「子どもの教育」の実感

＜第 1 期アクションプランが始まる直前（平成 31 年）までの状況＞

- ・ 平成 28 年の実感平均値は、5 点満点中 3.16 点であり、平成 28 年から平成 31 年までの間、前年と比べて有意に変化している年は確認できませんでした。
- ・ 平成 28 年と平成 31 年を比較すると、有意に低下していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、有意な差は確認されなかったことから、この期間における当該分野別実感概ね横ばいに推移していました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

- ・ 平成31年の実感平均値は3.10点であり、平成31年から令和4年までの間、前年と比較してみると、平成31年から令和2年までの間は有意な変化を確認できませんでしたが、令和2年から令和3年までの間は有意に上昇し、令和3年から令和4年までの間は有意な変化を確認できませんでした。
- ・ 平成31年と令和4年を比較すると、有意に上昇していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感は、人間性、社会性をはぐくむための教育内容の充実などの要因により、上昇傾向にありました。

(6) IV居住環境・コミュニティ分野「住まいの快適さ」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

- ・ 平成28年の実感平均値は、5点満点中3.19点であり、平成28年から平成31年までの間、前年と比較すると、平成28年から平成29年までの間は有意に上昇し、平成29年から平成30年までの間は有意に低下し、平成30年から平成31年までの間は有意な変化を確認できませんでした。
- ・ 平成28年と平成31年を比較すると、有意に上昇していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感は一貫した上昇傾向にありました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

- ・ 平成31年の実感平均値は3.34点であり、平成31年から令和4年までの間、前年と比較してみると、平成31年から令和4年までの間は有意な変化が確認されませんでした。
- ・ 平成31年と令和4年を比較しても、有意な変化は確認できませんでした。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、有意な差が確認されなかったことから、この期間における当該分野別実感、概ね横ばいで推移していました。

(7) IV居住環境・コミュニティ分野「地域社会とのつながり」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

- ・ 平成28年の実感平均値は、5点満点中3.26点であり、平成28年から平成31年までの間、前年と比較すると、平成28年から平成29年までの間は有意に上昇し、平成29年から平成31年までの間は有意な変化を確認できませんでした。
- ・ 平成28年と平成31年を比較すると、有意に上昇していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感、上昇傾向にありました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

- ・ 平成31年の実感平均値は3.35点であり、平成31年から令和4年までの間、前年と比較してみると、平成31年から令和3年までの間は有意に低下し、令和3年から

令和4年の間は有意な変化を確認できませんでした。

- ・ 平成31年と令和4年を比較すると、有意に低下していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感は、隣近所との面識・交流や自治会・町内会活動への参加の減少などの要因により、低下傾向にありました。

#### (8) V安全分野「地域の安全」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

- ・ 平成28年の実感平均値は、5点満点中3.70点であり、平成28年から平成31年までの間、前年と比較すると、平成28年から平成29年までの間は有意に上昇し、平成29年から平成31年までの間は有意な変化を確認できませんでした。
- ・ 平成28年と平成31年を比較すると、有意に上昇していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感は、上昇傾向にありました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

- ・ 平成31年の実感平均値は3.82点であり、平成31年から令和4年までの間、前年と比較してみると、平成31年から令和2年までの間は有意に低下していましたが、令和2年から令和3年までの間は有意に上昇し、令和3年から令和4年の間は有意な変化を確認できませんでした。
- ・ 平成31年と令和4年を比較すると有意に低下していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感、自然災害の発生状況などを要因として、低下傾向にありました。

#### (9) VI仕事・収入分野「仕事のやりがい」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

- ・ 平成28年の実感平均値は、5点満点中3.50点であり、平成28年から平成31年までの間、前年と比べて有意に変化している年は確認できませんでした。
- ・ 平成28年と平成31年を比較しても有意な変化を確認できませんでした。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、有意な差は確認できなかったことから、この期間における当該分野別実感、概ね横ばいに推移していました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

- ・ 平成31年の実感平均値は3.54点であり、平成31年から令和4年までの間、前年と比較してみると、平成31年から令和2年までの間は有意に低下し、令和2年から令和3年までの間は有意に上昇しましたが、令和3年から令和4年までの間で、再び有意に低下しました。
- ・ 平成31年と令和4年を比較すると有意に低下していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感、現在の収入や給料の額が十分ではないなどを要因として、低下傾向にありました。

#### (10) VI仕事・収入分野「必要な収入」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

- ・ 平成28年の実感平均値は、5点満点中2.44点であり、平成28年から平成31年までの間、前年と比較してみると、平成28年から平成29年までの間は有意に上昇し、平成29年から平成30年までの間は有意に低下し、平成30年から平成31年までの間は、再び有意に上昇していました。
- ・ 平成28年と平成31年を比較すると、有意に上昇していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感は上昇傾向にありました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

- ・ 平成31年の実感平均値は2.65点であり、平成31年から令和4年までの間、前年と比較してみると、平成31年から令和2年までの間は有意に低下し、令和2年から令和3年までの間は有意に上昇し、令和3年から令和4年の間は、再び有意に低下していました。
- ・ 平成31年と令和4年を比較すると有意に低下していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、令和2年から令和3年の間は、新型コロナウイルス感染症の影響がある中においても定額給付金等により一時的に実感が上昇したものの、この期間における該分野別実感は上昇傾向にありました。

#### (11) VII歴史・文化分野「歴史・文化への誇り」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

- ・ 平成28年の実感平均値は、5点満点中3.33点であり、平成28年から平成31年までの間、前年と比較すると、平成28年から平成30年までの間は有意な変化を確認できませんでしたが、平成30年から平成31年までの間は有意に低下していました。
- ・ 平成28年と平成31年を比較しても、有意な変化は確認できませんでした。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいに推移していました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

- ・ 平成31年の実感平均値は3.28点であり、平成31年から令和4年までの間、前年と比較してみると、平成31年から令和2年までの間は有意な変化を確認できませんでしたが、令和2年から令和3年までの間は有意に低下し、令和3年から令和4年の間は有意に上昇していました。
- ・ 平成31年と令和4年を比較しても、有意な変化は確認できませんでした。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、令和2年から令和3年の間においては、新型コロナウイルス感染症の影響等により実感が低下しましたが、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいで推移していました。

## (12) Ⅷ自然環境分野「自然のゆたかさ」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

- ・ 平成29年の実感平均値は、5点満点中4.26点であり、平成29年から平成31年までの間、前年と比較してみると、平成29年から平成30年までは有意な変化を確認できませんでしたが、平成30年から平成31年までの間は、有意に低下していました。
- ・ 平成29年と平成31年を比較すると、有意に低下していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感は概ね横ばいに推移していました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

- ・ 平成31年の実感平均値は4.21点であり、平成31年から令和4年までの間、前年と比較してみると、平成31年から令和2年までの間は有意に低下し、令和2年から令和3年までの間は有意な変化を確認できませんでしたが、令和3年から令和4年との間は有意に上昇していました。
- ・ 平成31年と令和4年を比較しても、有意な変化を確認できませんでした。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいに推移していました。

表α「県民意識調査」分野別実感の時系列分析結果（前年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移						
		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
主観的幸福感		3.44	3.48	3.46	3.43	3.43	3.52	3.51
			- (0.04)	- (▲0.02)	- (▲0.03)	- (0.05)	- (0.04)	- (▲0.01)
Ⅰ 健康・余暇	(1) 心身の健康	2.99	3.03	2.99	3.00	3.15	3.07	3.20
			- (0.04)	- (▲0.04)	- (0.02)	↑ (0.15)	↓ (▲0.08)	↑ (0.13)
	(2) 余暇の充実	2.90	3.03	2.98	3.05	2.93	2.97	2.96
			↑ (0.14)	- (▲0.05)	↑ (0.07)	↓ (▲0.12)	- (0.04)	- (▲0.01)
Ⅱ 家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.84	3.88	3.84	3.86	3.85	3.91
			- (0.00)	- (0.04)	- (▲0.04)	- (0.02)	- (▲0.01)	↑ (0.06)
	(4) 子育て	2.98	3.09	3.02	3.08	3.07	3.16	3.16
			↑ (0.10)	↓ (▲0.07)	↑ (0.06)	- (▲0.01)	↑ (0.09)	- (▲0.00)
Ⅲ 教育	(5) 子どもの教育	3.16	3.12	3.13	3.10	3.09	3.20	3.18
			- (▲0.04)	- (0.01)	- (▲0.02)	- (▲0.01)	↑ (0.11)	- (▲0.02)
Ⅳ 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.19	3.37	3.30	3.34	3.29	3.31	3.31
			↑ (0.18)	↓ (▲0.07)	- (0.04)	- (▲0.04)	- (0.02)	- (▲0.00)
	(7) 地域社会とのつながり	3.26	3.34	3.30	3.35	3.16	3.09	3.10
			↑ (0.08)	- (▲0.04)	- (0.05)	↓ (▲0.19)	↓ (▲0.06)	- (0.00)
Ⅴ 安全	(8) 地域の安全	3.70	3.83	3.79	3.82	3.66	3.76	3.72
			↑ (0.13)	- (▲0.04)	- (0.03)	↓ (▲0.16)	↑ (0.10)	- (▲0.04)
Ⅵ 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.50	3.56	3.51	3.54	3.38	3.49	3.41
			- (0.06)	- (▲0.06)	- (0.03)	↓ (▲0.16)	↑ (0.11)	↓ (▲0.07)
	(10) 必要な収入や所得	2.44	2.58	2.45	2.65	2.56	2.77	2.57
			↑ (0.14)	↓ (▲0.13)	↑ (0.20)	↓ (▲0.09)	↑ (0.21)	↓ (▲0.20)
Ⅶ 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.33	3.32	3.35	3.28	3.25	3.18	3.27
			- (▲0.01)	- (0.03)	↓ (▲0.07)	- (▲0.03)	↓ (▲0.08)	↑ (0.10)
Ⅷ 自然環境	(12) 自然のゆたかさ		4.26	4.27	4.21	4.16	4.18	4.23
				- (0.00)	↓ (▲0.05)	↓ (▲0.05)	- (0.02)	↑ (0.05)

(注) ① ( ) は前年との差。

なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

② t 検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記。

表β 「県民意識調査」分野別実感の時系列分析結果（基準年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移						
		H28 基準年①	H29	H30	H31 基準年②	R2	R3	R4
主観的幸福感		3.44	3.48	3.46	3.43	3.43	3.52	3.51
			- (0.04)	- (0.02)	- (▲0.01)	- (0.05)	- (0.09)	↑ (0.08)
Ⅰ 健康・余暇	(1) 心身の健康	2.99	3.03	2.99	3.00	3.15	3.07	3.20
			- (0.04)	- (▲0.01)	- (0.01)	↑ (0.15)	↑ (0.07)	↑ (0.20)
	(2) 余暇の充実	2.90	3.03	2.98	3.05	2.93	2.97	2.96
			↑ (0.14)	↑ (0.08)	↑ (0.15)	↓ (▲0.12)	↓ (▲0.08)	↓ (▲0.09)
Ⅱ 家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.84	3.88	3.84	3.86	3.85	3.91
			- (0.00)	- (0.04)	- (0.00)	- (0.02)	- (0.01)	↑ (0.07)
	(4) 子育て	2.98	3.09	3.02	3.08	3.07	3.16	3.16
			↑ (0.10)	- (0.03)	↑ (0.10)	- (▲0.01)	↑ (0.08)	↑ (0.08)
Ⅲ 教育	(5) 子どもの教育	3.16	3.12	3.13	3.10	3.09	3.20	3.18
			- (▲0.04)	- (▲0.04)	↓ (▲0.06)	- (▲0.01)	↑ (0.10)	↑ (0.08)
Ⅳ 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.19	3.37	3.30	3.34	3.29	3.31	3.31
			↑ (0.18)	↑ (0.11)	↑ (0.15)	- (0.04)	- (▲0.02)	- (▲0.03)
	(7) 地域社会とのつながり	3.26	3.34	3.30	3.35	3.16	3.09	3.10
			↑ (0.08)	- (0.04)	↑ (0.09)	↓ (▲0.19)	↓ (▲0.25)	↓ (▲0.25)
Ⅴ 安全	(8) 地域の安全	3.70	3.83	3.79	3.82	3.66	3.76	3.72
			↑ (0.13)	↑ (0.09)	↑ (0.12)	↓ (▲0.16)	↓ (▲0.06)	↓ (▲0.10)
Ⅵ 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.50	3.56	3.51	3.54	3.38	3.49	3.41
			- (0.06)	- (0.00)	- (0.04)	↓ (▲0.16)	- (▲0.05)	↓ (▲0.12)
	(10) 必要な収入や所得	2.44	2.58	2.45	2.65	2.56	2.77	2.57
			↑ (0.14)	- (0.01)	↑ (0.20)	↓ (▲0.09)	↑ (0.13)	↓ (▲0.07)
Ⅶ 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.33	3.32	3.35	3.28	3.25	3.18	3.27
			- (▲0.01)	- (0.02)	- (▲0.05)	- (0.03)	↓ (▲0.11)	- (▲0.01)
Ⅷ 自然環境	(12) 自然のゆたかさ		4.26	4.27	4.21	4.16	4.18	4.23
				- (0.00)	↓ (▲0.05)	↓ (▲0.05)	- (▲0.03)	- (0.02)

(注) ① ( ) は基準年との差。基準年①はH28～H31年（「自然のゆたかさ」はH29年が基準年）、基準年②はH31～R4の期間が対象。

なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

② t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記。

表 7 「県民意識調査」分野別実感の時系列分析結果（2年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移							
		H28	H30	H29	H31	H31	R3	R2	R4
主観的幸福感		3.44	3.46	3.48	3.43	3.43	3.52	3.48	3.51
			- (0.02)		- (▲0.05)		↑ (0.09)		- (0.03)
Ⅰ 健康・余暇	(1) 心身の健康	2.99	2.99	3.03	3.00	3.00	3.07	3.15	3.20
			- (▲0.01)		- (▲0.03)		↑ (0.07)		- (0.05)
	(2) 余暇の充実	2.90	2.98	3.03	3.05	3.05	2.97	2.93	2.96
			↑ (0.08)		- (0.02)		↓ (▲0.08)		- (0.02)
Ⅱ 家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.83	3.84	3.84	3.84	3.85	3.86	3.91
			- (0.04)		- (▲0.00)		- (0.01)		- (0.04)
	(4) 子育て	2.98	3.02	3.09	3.08	3.08	3.16	3.07	3.16
			- (0.03)		- (▲0.01)		↑ (0.08)		↑ (0.09)
Ⅲ 教育	(5) 子どもの教育	3.16	3.13	3.12	3.10	3.10	3.20	3.09	3.18
			- (▲0.04)		- (▲0.02)		↑ (0.10)		↑ (0.09)
Ⅳ 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.19	3.30	3.37	3.34	3.34	3.31	3.29	3.31
			↑ (0.11)		- (▲0.03)		- (▲0.02)		- (0.01)
	(7) 地域社会とのつながり	3.26	3.30	3.34	3.35	3.35	3.09	3.16	3.10
			- (0.04)		- (0.03)		↓ (▲0.25)		↓ (▲0.06)
Ⅴ 安全	(8) 地域の安全	3.70	3.79	3.83	3.82	3.82	3.76	3.66	3.72
			↑ (0.09)		- (▲0.01)		↓ (▲0.06)		↑ (0.06)
Ⅵ 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.50	3.51	3.56	3.54	3.54	3.49	3.38	3.41
			- (0.00)		- (▲0.02)		- (▲0.05)		- (0.03)
	(10) 必要な収入や所得	2.44	2.45	2.58	2.65	2.65	2.77	2.56	2.57
			- (0.01)		- (0.07)		↑ (0.13)		- (0.01)
Ⅶ 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.33	3.35	3.32	3.28	3.28	3.18	3.25	3.27
			- (0.02)		- (▲0.04)		↓ (▲0.11)		- (0.02)
Ⅷ 自然環境	(12) 自然のゆたかさ			4.26	4.21	4.21	4.18	4.16	4.23
					↓ (▲0.05)		- (▲0.03)		↑ (0.07)

(注) ① ( ) は2年前との差。

なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

②t 検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記。



表 δ-1-1 主観的幸福感の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準 5%
H31-H29	▲ 0.05	0.07	0.0083333
H29-H28	0.04	0.11	0.01
H31-H30	▲ 0.03	0.24	0.0125
H30-H28	0.02	0.36	0.0166667
H30-H29	▲ 0.02	0.51	0.025
H31-H28	▲ 0.01	0.77	0.05

表 δ-1-2 主観的幸福感の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準 5%
R3-H31	0.09	0.0010	0.0083333
R4-H31	0.08	0.0031	0.01
R2-H31	0.05	0.0607	0.0125
R3-R2	0.04	0.1561	0.0166667
R4-R2	0.03	0.2650	0.025
R4-R3	▲ 0.01	0.7777	0.05

表 δ-2-1 「心身の健康」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準 5%
H30-H29	▲ 0.04	0.1599	0.0083333
H29-H28	0.04	0.2333	0.01
H31-H29	▲ 0.03	0.4083	0.0125
H31-H30	0.02	0.5716	0.0166667
H31-H28	0.01	0.7266	0.025
H30-H28	▲ 0.01	0.8251	0.05

表 δ-2-2 「心身の健康」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準 5%
R4-H31	0.20	0.0000	0.0083333
R2-H31	0.15	0.0000	0.01
R4-R3	0.13	0.0000	0.0125
R3-R2	▲ 0.08	0.0093	0.0166667
R3-H31	0.07	0.0236	0.025
R4-R2	0.05	0.0932	0.05

δ-3-1 「余暇の充実」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準 5%
H31-H28	0.15	0.00000	0.0083333
H29-H28	0.14	0.00001	0.01
H30-H28	0.08	0.00730	0.0125
H31-H30	0.07	0.02350	0.0166667
H31-H29	0.02	0.59077	0.025
H30-H29	▲ 0.05	0.07816	0.05

表 δ-3-2 「余暇の充実」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準 5%
R2-H31	▲ 0.12	0.0001	0.0083333
R4-H31	▲ 0.09	0.0026	0.01
R3-H31	▲ 0.08	0.0083	0.0125
R3-R2	0.04	0.2223	0.0166667
R4-R2	0.02	0.4112	0.025
R4-R3	▲ 0.01	0.6951	0.05

δ-4-1 「家族関係」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準 5%
H30-H28	0.04	0.134	0.0083333
H31-H30	▲ 0.04	0.161	0.01
H30-H29	0.04	0.162	0.0125
H29-H28	0.00	0.895	0.0166667
H31-H28	0.00	0.926	0.025
H31-H29	▲ 0.00	0.970	0.05

表 δ-4-2 「家族関係」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準 5%
R4-H31	0.07	0.0148	0.0083333
R4-R3	0.06	0.0344	0.01
R4-R2	0.04	0.1022	0.0125
R2-H31	0.02	0.4024	0.0166667
R3-R2	▲ 0.01	0.6386	0.025
R3-H31	0.01	0.7015	0.05

表 δ-5-1 「子育て」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
			5%
H29-H28	0.10	0.001	0.0083333
H31-H28	0.10	0.003	0.01
H30-H29	▲ 0.07	0.021	0.0125
H31-H30	0.06	0.048	0.0166667
H30-H28	0.03	0.294	0.025
H31-H29	▲ 0.01	0.822	0.05

表 δ-5-2 「子育て」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
			5%
R3-R2	0.09	0.0024	0.0083333
R4-R2	0.09	0.0027	0.01
R3-H31	0.08	0.0110	0.0125
R4-H31	0.08	0.0132	0.0166667
R2-H31	▲ 0.01	0.7349	0.025
R4-R3	▲ 0.00	0.8942	0.05

表 δ-6-1 「子どもの教育」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
			5%
H31-H28	▲ 0.06	0.03	0.0083333
H29-H28	▲ 0.04	0.11	0.01
H30-H28	▲ 0.04	0.19	0.0125
H30-H29	0.01	0.80	0.0166667
H31-H30	▲ 0.02	0.40	0.025
H31-H29	▲ 0.02	0.54	0.05

表 δ-6-2 「子どもの教育」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
			5%
R3-R2	0.11	0.0002	0.0083333
R3-H31	0.10	0.0006	0.01
R4-R2	0.09	0.0020	0.0125
R4-H31	0.08	0.0059	0.0166667
R4-R3	▲ 0.02	0.4880	0.025
R2-H31	▲ 0.01	0.7789	0.05

表 δ-7-1 「住まいの快適さ」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
			5%
H29-H28	0.18	0.000000	0.0083333
H31-H28	0.15	0.000001	0.01
H30-H28	0.11	0.000222	0.0125
H30-H29	▲ 0.07	0.018134	0.0166667
H31-H30	0.04	0.230452	0.025
H31-H29	▲ 0.03	0.245229	0.05

表 δ-7-2 「住まいの快適さ」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
			5%
R2-H31	▲ 0.04	0.18	0.0083333
R4-H31	▲ 0.03	0.36	0.01
R3-H31	▲ 0.02	0.42	0.0125
R3-R2	0.02	0.57	0.0166667
R4-R2	0.01	0.67	0.025
R4-R3	▲ 0.00	0.90	0.05

表 δ-8-1 「地域社会とのつながり」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
			5%
H31-H28	0.09	0.001	0.0083333
H29-H28	0.08	0.004	0.01
H31-H30	0.05	0.065	0.0125
H30-H28	0.04	0.145	0.0166667
H30-H29	▲ 0.04	0.159	0.025
H31-H29	0.01	0.637	0.05

表 δ-8-2 「地域社会とのつながり」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
			5%
R3-H31	▲ 0.25	0.0000	0.0083333
R4-H31	▲ 0.25	0.0000	0.01
R2-H31	▲ 0.19	0.0000	0.0125
R3-R2	▲ 0.06	0.0282	0.0166667
R4-R2	▲ 0.06	0.0399	0.025
R4-R3	0.00	0.9065	0.05

表 δ-9-1 「地域の安全」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
			5%
H29-H28	0.13	0.000000	0.008333
H31-H28	0.12	0.000001	0.01
H30-H28	0.09	0.000400	0.0125
H30-H29	▲ 0.04	0.083655	0.016667
H31-H30	0.03	0.194475	0.025
H31-H29	▲ 0.01	0.678766	0.05

表 δ-9-2 「地域の安全」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
			5%
R2-H31	▲ 0.16	0.0000	0.008333
R3-R2	0.10	0.0000	0.01
R4-H31	▲ 0.10	0.0001	0.0125
R4-R2	0.06	0.0132	0.016667
R3-H31	▲ 0.06	0.0150	0.025
R4-R3	▲ 0.04	0.0973	0.05

表 δ-10-1 「仕事のやりがい」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
			5%
H29-H28	0.06	0.059	0.008333
H30-H29	▲ 0.06	0.081	0.01
H31-H28	0.04	0.266	0.0125
H31-H30	0.03	0.325	0.016667
H31-H29	▲ 0.02	0.467	0.025
H30-H28	0.00	0.909	0.05

表 δ-10-2 「仕事のやりがい」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
			5%
R2-H31	▲ 0.16	0.0000	0.008333
R4-H31	▲ 0.12	0.0001	0.01
R3-R2	0.11	0.0006	0.0125
R4-R3	▲ 0.07	0.0187	0.016667
R3-H31	▲ 0.05	0.1158	0.025
R4-R2	0.03	0.2797	0.05

表 δ-11-1 「必要な収入や所得」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
			5%
H31-H28	0.20	0.00000000	0.008333
H31-H30	0.20	0.00000001	0.01
H29-H28	0.14	0.00002533	0.0125
H30-H29	▲ 0.13	0.00007793	0.016667
H31-H29	0.07	0.05051029	0.025
H30-H28	0.01	0.82012116	0.05

表 δ-11-2 「必要な収入や所得」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
			5%
R3-R2	0.21	0.000	0.008333
R4-R3	▲ 0.20	0.000	0.01
R3-H31	0.13	0.000	0.0125
R2-H31	▲ 0.09	0.010	0.016667
R4-H31	▲ 0.07	0.030	0.025
R4-R2	0.01	0.698	0.05

表 δ-12-1 「歴史・文化への誇り」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
			5%
H31-H30	▲ 0.07	0.02	0.008333
H31-H28	▲ 0.05	0.10	0.01
H31-H29	▲ 0.04	0.19	0.0125
H30-H29	0.03	0.27	0.016667
H30-H28	0.02	0.45	0.025
H29-H28	▲ 0.01	0.72	0.05

表 δ-12-2 「歴史・文化への誇り」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
			5%
R3-H31	▲ 0.11	0.0001	0.008333
R4-R3	0.10	0.0005	0.01
R3-R2	▲ 0.08	0.0059	0.0125
R2-H31	▲ 0.03	0.2550	0.016667
R4-R2	0.02	0.4711	0.025
R4-H31	▲ 0.01	0.6789	0.05

表 δ-13-1 「自然のゆたかさ」の多重比較  
(H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
			5%
H31-H30	▲ 0.05	0.02	0.0166667
H31-H29	▲ 0.05	0.02	0.025
H30-H29	0.00	0.85	0.05
H29-H28			
H30-H28			
H31-H28			

表 δ-13-2 「自然のゆたかさ」の多重比較  
(H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
			5%
R4-R2	0.07	0.0025	0.0083333
R4-R3	0.05	0.0219	0.01
R2-H31	▲ 0.05	0.0224	0.0125
R3-H31	▲ 0.03	0.1230	0.0166667
R3-R2	0.02	0.4318	0.025
R4-H31	0.02	0.4702	0.05